2026 年 11 月 23 日

Photo Letter

嶋田彰夫

青空を見上げられる日々が多くなって、秋を感じる景色になりました。朝晩と日中の寒暖差が大きく、冬の服装をしている人、未だ未だ半袖で歩く若者たちと様々です。松戸周辺ではイチョウの黄葉が多くみられますが、もみじの紅葉はこれからでしょうか。

Days of clear blue sky and chrysanthemums besides the autumn foliage are urging us to replace summer clothes with winter ones.

●「関東一湯島天神　大菊花展」(11 月上旬)

農家の野菜畑などの脇に咲く野菊も良いですが、湯島神社の鉢植えの菊も毎年楽しみです。
















叙々苑
伊豆榮
株式会社 TONEGAWA






株式会社 東京ドーム
株式会社 伊藤園
有限会社 イイムラ
大澤克己






湯島小学校

●すくも稲荷神社(松戸)　Sukumo-Inari Shrine, Matsudo



松戸駅西口の街道から路地を入ったところに小さな神社の石碑。なんて読むのかと思っていました。
江戸時代は宿場（松戸宿＝まつどしゅく）でした。

「宿場町も街道の裏側は一面の水田で各所に農作守護の稲荷社が勧請されました。この付近の籾殻（もみがら＝「すくも」）の山の中から観音様が示現したとされ、のち 1784（天明 4）年に松龍寺観音堂に祀られたと言われています。」
(松戸市観光協会資料から)





神社の隣は創業以来 100 年の歴史がある「とうふの相模屋」さんです。
相模屋さんで調理、販売されているのが「すくも稲荷寿司」です。刻んだ紅生姜がはいっていて、天気の良い昼時に時々買って戸上邸（戸上が丘歴史公園）の四阿（あずまや）で、鳥の鳴き声を聴きながら食べます。
（4 つで 500 円）

● 『助六寿司』　Sukeroku-Sushi



そういえば、いなり寿司とのり巻きで「助六寿司」。江戸時代、歌舞伎の人気演目『助六由縁（ゆかり）の江戸桜』にちなんだ弁当なのだそうです。
主人公・助六の愛する吉原の花魁（おいらん）・揚巻にちなんで、「揚」は油揚げのいなり寿司、「巻」は巻き寿司とのこと。



＊＊＊

● 清戸の泉（白井市） Kiyotono-izumi(spring), Shiroi-City



印西市や白井市を行く北総線の「千葉ニュータウン中央」や「白井」沿いの里山を地元の方たちとウォーキングしました。巨大なDC（データセンター）が建設工事されていて、周辺の住環境への影響が懸念されています。

そういった所と背中合わせの様に自然が里山として保全されています。

「清戸の泉」は船橋カントリークラブのコースのど真ん中にありました。クラブハウスの許可を頂いて、木立のなかの歩行路を行くと小さな祠と泉がありました。





9 世紀初め頃、元々印旛沼の入江だった地域（清戸）が大干ばつに見舞われて、雨乞いをしたのがはじまりとの伝えがあります。

● 飯綱権現（いいづなごんげん） Iizuna-Gongen Shrine. Shiroi-City





里山の雑木林深く歩いて行くと小高い土山の上に祠があります。

由来は詳しく判りませんが、元々は北総線の建設現場にあって、移設をされたとの事です。

修験者が出てきそうですね。

「権現」

日本の神々が日本の仏教に取り入れられた際に、「権現」という神号が多く用いられて現われた神仏習合の神のようです。



荒れた竹藪もありますが、多くの林や平地は野菜や果物栽培のためにきれいに保全がされています。



トトロのネコバスがでてきそうな雰囲気がありました。

カラスウリの実が沢山なっています。

●お茶の水　Nostalgic atmosphere, Ochanomizu Jinbocho

日が傾きかけた遅い午後、JRお茶の水駅から神保町方面へ。

カザルスホール、主婦の友、YWCAのあった辺りの風景も変わりました。おしゃれなカフェの前をタウンバスが通ると、ヨーロッパの街にいるような錯覚をしてしまいます。古書店、変わらないところも無くなってしまったお店も。





＊＊＊